

# 2026年4月期 第1四半期 決算説明会

決算発表：2025年9月11日

[株式会社Macbee Planet](https://www.macbee-planet.co.jp)

証券コード 7095



# 事業概要

- 「データ」「テクノロジー」「コンサルティング」の掛け合わせによって、クライアントのリスクを最大限抑えた成果報酬型マーケティングを提供



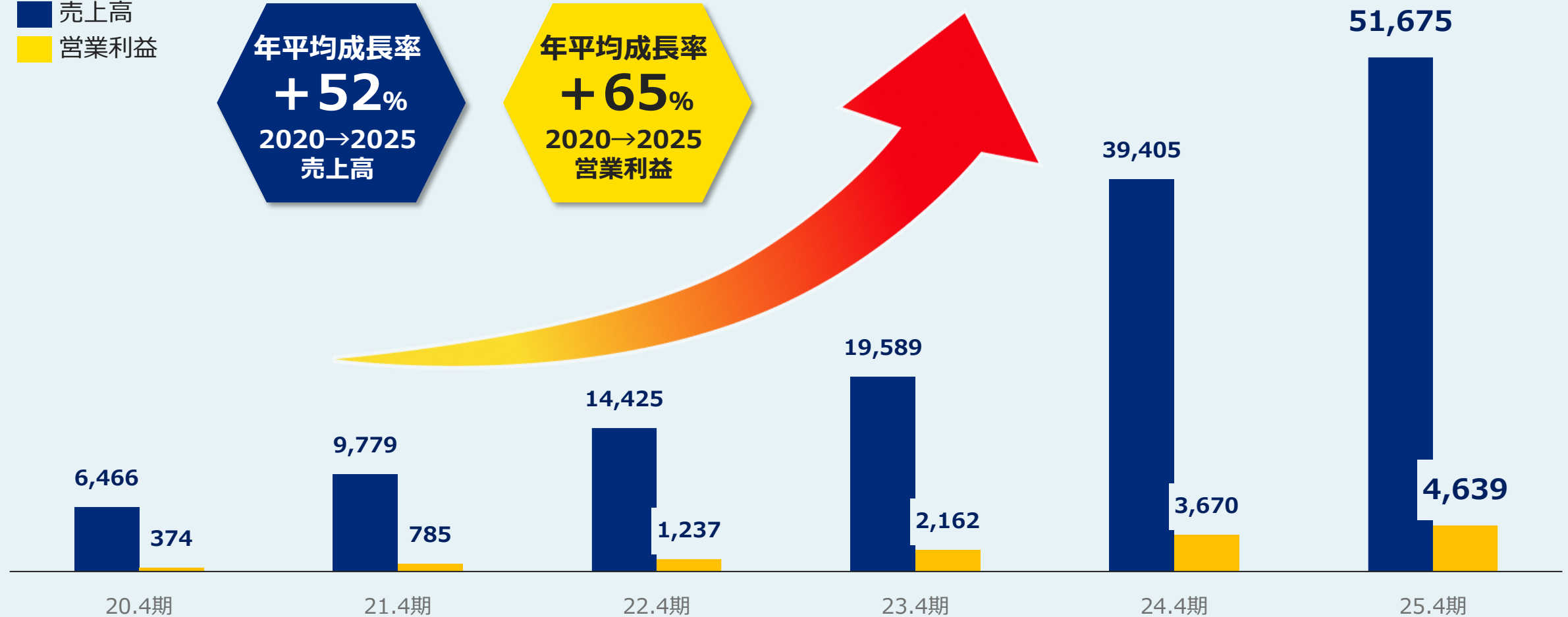
## ■ 上場後、成果報酬型のマーケティング支援により売上高・営業利益ともに圧倒的な成長を実現

(単位：百万円、J-GAAP)

■ 売上高  
■ 営業利益

年平均成長率  
**+52%**  
2020→2025  
売上高

年平均成長率  
**+65%**  
2020→2025  
営業利益

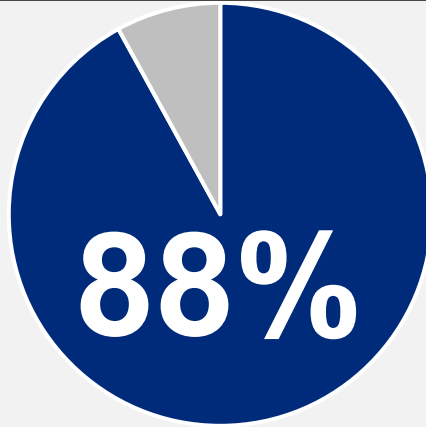


# 事業成長の背景

- データ蓄積でマーケティング効率が向上するため、長期的に高い継続率を実現
- 顧客内のシェア拡大やクロスセルによって単価も向上

## 高継続率

上位顧客の長期継続率\*

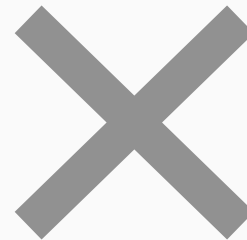


高い費用対効果の実現 (LTV>投下コスト)

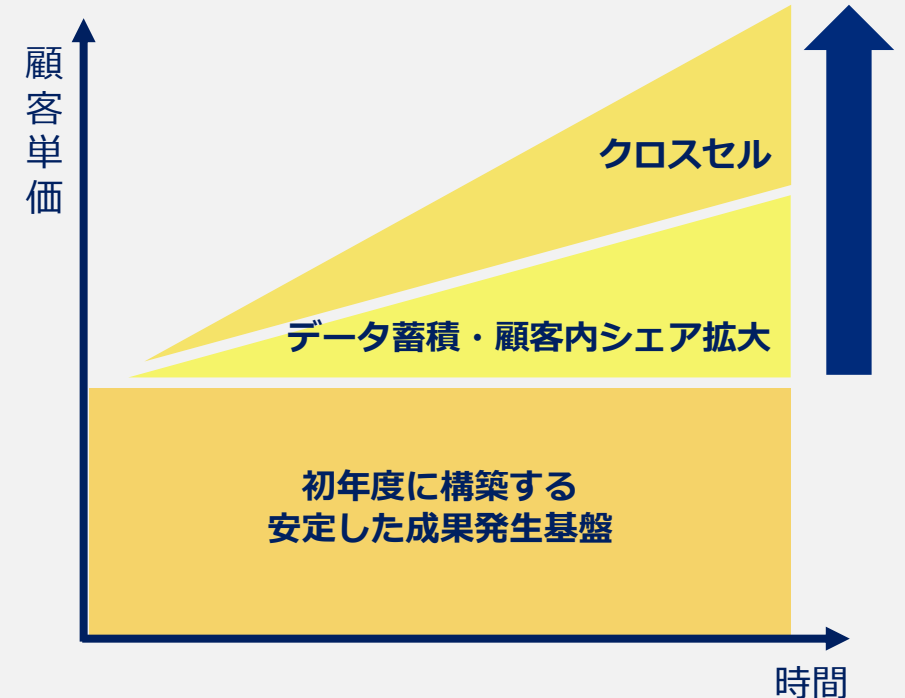
成果報酬の  
データ蓄積/解析

新たな消費者  
接点の創出

PRなど周辺  
機能の一貫提供



## 単価向上



\*上場後の各年度の上位20顧客のうちの2025年4月末の取引継続率（2020年4月期~2025年4月期）

# 成果報酬型市場の見通し

- 現状、獲得市場における課金体系は固定報酬型や手数料型が主流
- 今後は顧客にとってリスクの低い成果報酬型が急速に拡大



※25.4期売上高

出所：2023年は株式会社電通「日本の広告費」をもとに当社算出。2030年以降の成果報酬型の数値は当社推計

# 中期経営計画

- 三つの事業戦略でマーケティングの常識をブレイクスルーし、数値目標の達成を目指す

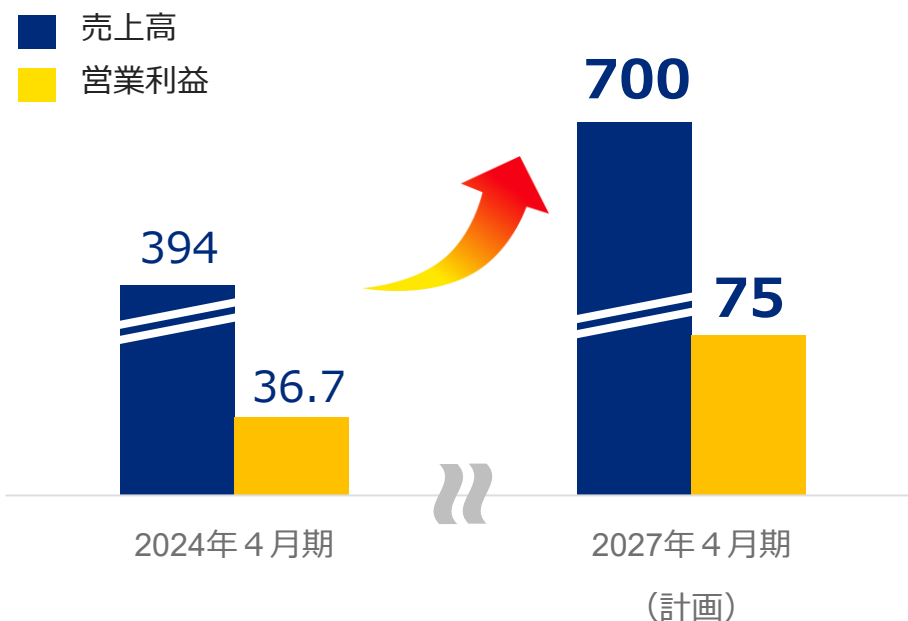
## 事業戦略\*

① インターネット広告の次世代化  
(成果報酬型への転換)

② PRと獲得の融合  
(成果報酬型への転換/拡張)

③ 加速度的なM&Aによる  
非連続な成長

## 数値目標\*\* (億円)



\*事業戦略に関する詳細は別資料「中期経営計画（2025年4月期～2027年4月期）」を参照

\*\*2027年4月期数値目標の前提：①日本会計基準 ②広告宣伝費を含めず ③大型M&Aを含めず

# 2026年4月期第1四半期業績ハイライト

## ■ 売上収益は想定に近い着地であったものの、 融資・カード業界の広告費高騰の影響で大幅減益に

### (単位：百万円) 第1四半期決算ハイライト

FY2025 Q1	FY2026 Q1	前年同期比 増減率
売上収益		
11,560	12,780	+11%

FY2025 Q1	FY2026 Q1	前年同期比 増減率
営業利益		
1,281	754	▲41%
営業利益率		
11.1%	5.9%	▲5.2pt

### 業績

#### ■ 売上収益：全体としては想定に近い着地 (計画内)

投資業界：不正アクセス問題による広告抑制でYoYで成長もQoQは減収

人材業界：YoYで成長もQ4が繁忙期で、季節性によりQoQは減収

(計画外)

融資・カード業界は計画比マイナスも医療業界でカバー

#### ■ 利益：計画未達

(計画内) 増員に伴う人件費増、広告宣伝費、M&A費用など

(計画外) 融資・カード業界の広告費高騰の影響で大幅減益に

### その他

#### ■ 中期経営計画の進捗：

- ・バーティカル・リテールメディアの創出は複数社と協議中
- ・インフルエンサーを活用した成果報酬型広告の取り組み開始
- ・MOJAにて動画を活用した成果報酬型メディアを企画し構築準備中

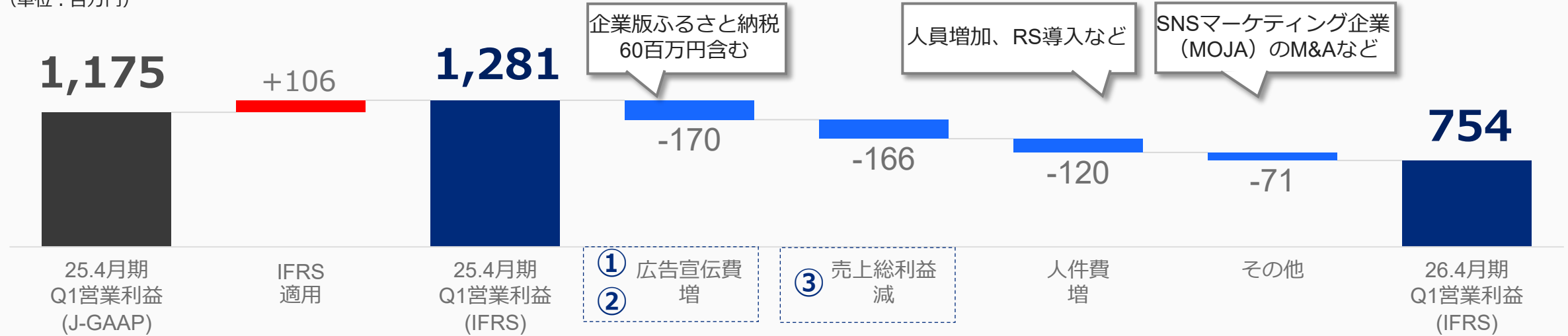
#### ■ 新規獲得：月間売上1千万円以上の案件を2件獲得

#### ■ 貸付金：回収困難も貸倒引当金として計上済のため、業績影響なし

# 営業利益増減内訳

## ■ 広告宣伝費やM&Aなどの影響で減益を想定していたものの、 融資・カード業界における広告費の高騰により想定以上の減益で着地

(単位：百万円)



### ① 広告宣伝費増

#### Q1に実施した主な施策

当社に関する書籍の広告を実施



#### 今後の見通し

- ・ 中長期的なブランド向上を目的に昨期から取組一定の効果を実感
- ・ 今期は5.5億を投下予定で、施策は吟味し実施。来期以降もPR施策は継続予定

### ② 企業版ふるさと納税

#### Q1に実施した主な施策

山梨県北杜市に対して寄付を実施



#### 今後の見通し

- ・ 税額控除により、通期の当期利益に対する影響は軽微
- ・ 自治体と提携し、地域社会の課題解決に資するプロジェクトを検討

### ③ 売上総利益減

#### Q1に発生した事象

【融資・カード】にて当社と取引のない大手メディアが出稿を強化したことで広告費が高騰し獲得効率が悪化

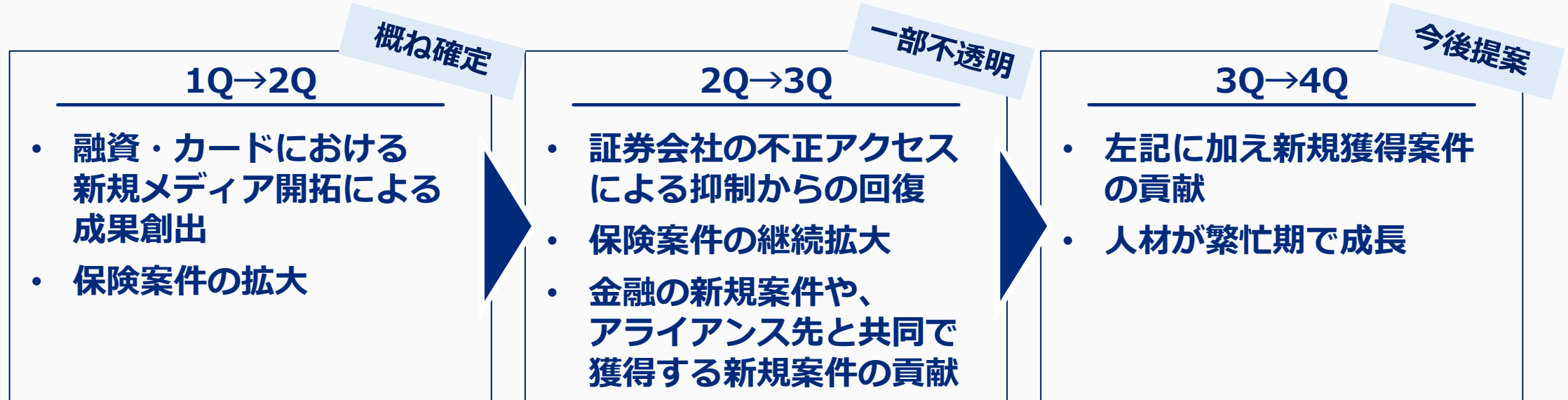
#### 今後の見通し

- ・ 【融資・カード】はメディアを開拓することで広告費高騰の影響を一定回避し回復も前期比はマイナス
- ・ 3Q以降は売上収益向上に伴い前期比プラス想定



# 今後の見通し

- 融資・カードの影響は通期見通しに折り込んでおらずネガティブではあるものの、3Q時点では過去最高の売上収益・営業利益を達成する見込み



(単位：円)



本資料には、将来の見通しに関する内容が含まれておりますが、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成されたものであり、リスクや不確実性等を含むため、将来の経営成績等の結果を保証するものではありません。

したがって、実際の結果は、環境の変化などにより、本資料に記載された将来の見通しと大きく異なる可能性があります。

上記のリスクや不確実性には、国内外の経済状況や当社の関連する業界動向等の要因が含まれますが、これらに限られるものではありません。

今後、新しい情報・事象の発生等があった場合においても、当社は、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報について、更新・改訂等を行う義務を負うものではありません。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、当該情報の正確性、適切性等を当社が保証するものではありません。